

野田市竜巻被害一党調査団が現地調査、被災者の声を国・県・市へ



↑壊れた民家前で被災者からの要望を聞く（乾流山市議（左）、千久田野田市議（中央））。↗被災者の声を聞く塩川哲也衆院議員（右）。→樹齢百年の大木も根こそぎ倒れ、撤去作業を視察する加藤英雄千葉県議。↓軽自動車4台分以上の大きな屋根も吹き飛ばされました。



9月2日月曜日午後2時過ぎに発生した竜巻。埼野田市でも被害を広げました。
日本共産党は、直後から、地元後援会や議員団による調査や被災者訪問を実施。翌3日火曜日、午前10時半～千葉県議団調査団、午後12時半～国会議員団調査団が相次いで現地入り。流山市議団（乾、小田桐議員）も参加し、被災者からの聞き取りと今後の対策を協議しました。（野田市では竜巻被害は2度目ということもあり、被害者宅1軒1軒へ市職員が訪問し、さっそくブルーシートの配布を完了していました。）

9月議会開会日に緊急質問

また3日午前中に開催された議会運営委員会では、小田桐市議の提案した開会日当日の緊急質問（本市

- 「新築を購入して6年、ローンが心配」
- 「家や車の保険が竜巻まで対応しているか不安」
- 「2軒先はゴミは飛んできても家の被害は何もないかたた、ほんとにスポーツ的」
- 「竜巻が2つにわかれて家を抜けていった」
- 「樹齢100年の大木もあつからないものだ」
- 「窓ガラスが割れて、子どものベットと子供部屋の壁に突き刺さっていて、ゾッとした」
- 「家の片づけで仕事を2・3日休む。ガラスが粉々で分別なんてできないし、焼却場まで運べない。道路にさえ出せば市で片づけてほしい」：

の防災対策について）が全会一致で了承され、また野田市への議会支援金も提案。5日代表者会議で協議されることになりました。